

めぐみイエス・キリスト教会

2019年6月16日(日)第三主日礼拝
週報「通算第460号」



2019年標題聖句

第Ⅱペテロ1章10節

《ですから、兄弟たちよ。ますます熱心に、あなたがたの召されたことと選ばれたこととを確かなものとしなさい。これらのことを行なっていれば、つまりくことなど決してありません。》

第一礼拝	毎週日曜日	午前10時～11時
第二礼拝	毎週日曜日	午後6時～7時
聖書の学びと祈り会	毎週水曜日	午後6時15分～7時15分

牧師 鈴木 竜 実
ますみ

※当教会は、モルモン教、エホバの証人(ものみの塔)、統一教会(原理福音)とは、一切関わりがありません。

◇◆◇2019年6月16日 第三主日礼拝
第一礼拝 午前10時 第二礼拝 午後6時
司会 鈴木 竜実牧師 奏楽 佐野 みゆきさん
◎礼拝プログラム

【前奏祈祷】

【賛美Ⅰ】 新聖歌416 「聖霊来たれり」 p. 668

【交読文】 No.36 詩篇第116篇 p. 908

【賛美Ⅱ】 新聖歌222 「罪の深みに」 p. 336

【使徒信条】 【主の祈り】 【先週説教】

【賛美Ⅲ】 オリジナルNo.5 「聖霊の風」

【聖書朗読】 使徒の働き2章1節～4節(新約p. 209)

【祈 禱】

【説 教】 《賜物・・・、その前に》 齊藤 順子 宣教師

【聖 餐 式】

【賛美Ⅳ】 新聖歌165 「栄光イエスにあれ」 p. 235

【平和祈り】

【頌 栄】 新聖歌63 「父・御子・御霊の」 p. 85

【祝祷後奏】

◎本日の聖書箇所【マタイの福音書25章14節～30節】(新約p.47)

25:14 「天の御国は、しもべたちを呼んで、自分の財産を預け、旅に出て行く人のようです。

25:15 彼は、おのおのその能力に応じて、ひとりには五タラント、ひとりには二タラント、もうひとりには一タラントを渡し、それから旅に出かけた。

25:16 五タラント預かった者は、すぐに行って、それで商売をして、さらに五タラントもうけた。

25:17 同様に、二タラント預かった者も、さらに二タラントもうけた。

25:18 ところが、一タラント預かった者は、出て行くと、地を掘って、その

主人の金を隠した。

25:19 さて、よほどたってから、しもべたちの主人が帰って来て、彼らと清算をした。

25:20 すると、五タラント預かった者が来て、もう五タラント差し出して言った。『ご主人さま。私に五タラント預けて下さいましたが、ご覧下さい。私はさらに五タラントもうけました。』

25:21 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びをともに喜んでくれ。』

25:22 二タラントの者も来て言った。『ご主人さま。私は二タラント預かりましたが、ご覧下さい。さらに二タラントもうけました。』

25:23 その主人は彼に言った。『よくやった。良い忠実なしもべだ。あなたは、わずかな物に忠実だったから、私はあなたにたくさんの物を任せよう。主人の喜びを共に喜んでくれ。』

25:24 ところが、一タラント預かっていた者も来て、言った。『ご主人さま。あなたは、蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めるひどい方だとわかっていました。』

25:25 私はこわくなり、出て行って、あなたの一タラントを地の中に隠しておきました。さあどうぞ、これがあなたの物です。』

25:26 ところが、主人は彼に答えて言った。『悪いなまけ者のしもべだ。私が蒔かない所から刈り取り、散らさない所から集めることを知っていたというのか。』

25:27 だったら、おまえはその私の金を、銀行に預けておくべきだった。そうすれば私は帰って来た時に、利息がついて返してもらえたのだ。

25:28 だから、そのタラントを彼から取り上げて、それを十タラント持っている者にやりなさい。』

25:29 だれでも持っている者は、与えられて豊かになり、持たない者は、持っているものまでも取り上げられるのです。

25:30 役に立たぬしもべは、外の暗やみに追い出さない。そこで泣いて歯ぎしりするのです。」

◎先週のメッセージの概要【ペンテコステ】

《今週は「ペンテコステ」となります。聖霊が降られた記念すべき日です。「五旬節」とは、過越の祭が終わってから五十日目のことを指します。あるいは、7週(すなわち $7 \times 7 = 49$ 日)もしくは「初穂の日」とも呼ばれ、もともとは大麦の収穫を祝う祭りのことでした。

多くの裕福なユダヤ人は、ユダヤ最大の祭である「過越の祭」をエルサレム市内の別宅において、その期間を過ごし、またこの五旬節の祭りを終えてから、それぞれ自分の国に戻ることが習わしだったのです。

それゆえ、ペンテコステの時にはローマ帝国の所領のあらゆる国々から、多くの敬虔な(エルサレムにて行われる祭りに常に巡礼する)ユダヤ人が集っていました。このタイミングで聖霊が降られたことも、神様の大きいご計画であったことは、言うまでもありません。

イエス様は最後の晩餐において愛する弟子たちに、約束されました。「私は父にお願いします。そうすれば、父はもうひとりの助け主をあなたがたにお与えになります。その助け主がいつまでもあなたがたと、共におられるためにです。その方は、真理の御霊です。」と。

この「もうひとりの助け主」こそが聖霊なのです。イエス様は、真の救い主と同時に助け主であります。その真実は永遠に変わることはありません。イエス様は神様ですが、私たちと同じように肉体(血と肉)を持たれました。よみがえられた後も、栄光の体を持っています。つまり複数の場所には、同時に存在(偏在)は出来ないという制限があるのです。

しかし聖霊は、イエス様の霊でもあられ、私たちと交わりをして下さるのです。交わりのことをギリシャ語で「コイノニア」と言います。それはおもに食事をする事なのです。一人の食事は、概してさみしいものですが、多くの人々と共に食事することは、とても楽しいことです。それと同じように、もうひとりの助け主であられる聖霊は、私たちの中に住んで下さり共に食事をして下さるのです。聖霊は今から二千年ほど前に確かに降られました。そして今もなお、この地上に留まっておられます。》

◎お知らせ

※本日の午後礼拝では、斉藤順子宣教師がメッセージと宣教報告をして下さいます。また次回の「聖書の学びと祈り会」は、6月19日(水)に行ないます。